

出会い

～SL活動を通して～

活動先：学内・篠島・名古屋

① 初めに

私たちの班は、前期のテーマを児童養護とし、後期からは活動先を篠島とした。児童養護の理解を深めるなかで、非措置児童だけでなく非措置児童を含めた児童について理解を深めていきたいと考えていたときに、篠島でゴミ拾いをするという誘いを岡ゼミ3年、原田ゼミ3年の先輩から頂き、それから篠島に魅了され後期の活動を篠島とした。

ゴミ拾いに協力してくれた「NGO ア∞ス」と篠島からの繋がりができ、それ以後「NGO ア∞ス」の活動にスタッフとして関わらせてもらっている。

篠島での活動も、「NGO ア∞ス」の活動も出会いがなければできなかった活動である。SL活動を通じた出会いが、活動のきっかけをつくってくれた。その出会いと活動を紹介していく。

② 活動目的

前期の活動テーマ、児童養護の活動目的はまず児童養護についての理解を深めることである。講義で教えてもらったことしか知らなかったので、児童養護施設の現状や職員の仕事に対する気持ち、里親制度などについて学問的な知識を得るだけでなく現場で働いている人の声を聞き、理解を深めることを目的とした。

後期の活動テーマ、篠島・「NGO ア∞ス」での活動目的は、「篠島勝手に盛り上げ隊」が今後の篠島の発展や活性化に対して何ができるのかということを考えていくこと、そして「NGO ア∞ス」での活動目的は、「NGO ア∞ス」の活動に関わらせてもらうことにより、自分でアイデアを出す力や自ら率先していく力、さまざまな年代の方とコミュニケーション力をつけるなど、社会に出たときに必要となる力を身に付けることが目的である。

③ 活動内容

・本学の堀場純矢先生へインタビュー

本学で児童福祉を教えている堀場先生に児童養護について私たちが思った疑問や児童養護施設の今後の課題、児童養護施設で働いていたときにやりがいを感じたときのことなど、職員としての話も聞かせていただいた。

・施設職員2名の方へインタビュー

実際に今児童養護施設で働いている施設職員2名の方を堀場先生に紹介していただき、話を聞く時間を設けていただいた。

今現場で何が足りていないのか、どういったことを国にしてほしいのか現場で働いている方が直面している問題や、働いているときにやりがいを感じる時やなぜ施設職員になろうと思ったのかなど、さまざまなことを聞かせていただいた。

・「みんなで学ぼう!茶話ごー!わくわく集会」に参加

この集会では児童養護を主軸にし、毎回児童養護に関するテーマでディスカッションをしたり当事者の方から話を聞かせてもらうという集会である。

私たちが参加したときのテーマは里親であった。内容は愛知県内でファミリーホームを運営している方の話、資料を用いたディスカッション、参加者交流会の3つだ。参加者のなかには学生もいれば里親の方もいた。交流会では里親を現在している方と話をすることができ困っていることやどういった支援があればいいのか、など議論をした。

・「篠島勝手に盛り上げ隊」でゴミ拾い

昨年岡ゼミで篠島を活動先としていた先輩方に篠島でのゴミ拾いに誘っていただき、初めて篠島を訪れた。

名古屋を中心に活動している「NGO ア∞ス」に協力をいただき、海水浴客で賑わうサンサンビーチを二つの班にわかれ、「NGO ア∞ス」の象徴であるレンジャー服を着て「篠島勝手に盛り上げ隊」・「NGO ア∞ス」・島民の方でゴミ拾いを行った。

ゴミ拾いをしながらサンサンビーチにいる人にあいさつをしたり会話をしたりしながら楽しくゴミ拾いをした。

ゴミ拾いのあとは島民の方と交流会をし、「未来の篠人へ ～私からのメッセージ～」の作成をした。メッセージの作成では、篠島の好きなどを年代問わず聞いていき、写真を撮



ってボードに貼り付けていく。さまざまな年代の人とコミュニケーションをはかることができ、また篠島の魅力をたくさん話していただき、さらに篠島が私自身も好きになった。



・「NGO ア∞ス」

篠島でゴミ拾いに協力してくれた

「NGO ア∞ス」と篠島からつながりができ、それ以後活動に参加していくなかで、スタッフとして関わらせてもらえるようになった。

「NGO ア∞ス」のメンバーはほとんどが社会人である。社会人とひとつのテーマについて熱く語り合い、参加者に楽しんでもらうためにはどうしたらいいのかともに悩み、ともに活動を楽しむ。社会人とこういった話し合いをしたり活動をしたりする機会は学内ではほとんどない。これが私にとってとても刺激的であり、魅力的であった。

参加者にどう楽しんでもらうか、どう宣伝すれば人がたくさん集まるかなど学内の活動だけではできない経験である。

「NGO ア∞ス」は私にとって成長と学びの場である。こういった面で私は「NGO ア∞ス」の活動をSL活動として位置づけられると考えた。

④ 今後の課題

今後の課題は、「篠島勝手に盛り上げ隊」にいかにして新メンバーを誘うかである。篠島の魅力を上手く伝えられるかどうかにかかっている。新メンバー勧誘についてはこれからじっくりと相談し、先輩方や私たちが卒業したあとでも「篠島勝手に盛り上げ隊」が活動している状態をつくっていききたい。

さらに、篠島での活動を夏のゴミ拾いだけでなくほかにも目玉となる活動をしていくのか、またそれはどういった内容のものにするのかといったことが今後の課題である。

⑤ 活動での学び

今年一年間を通して学べたことは、出会いを逃さないということ、そして動くということである。動かなければ何も始まらないし、学べることはない。学びたいのであれば自分で活動先を探し、どんどん飛び込んでいくこと。学内の活動だけに収まらず、外の活動を通してさまざまな年代の方とふれあい、話を聞き自分の教養にしていくことが大切である。話を聞くことで自分の考え方に幅が広がり、そして議論をすることで新しい考えも出てくる。たくさん人と会い、そして話すことが重要であることも学んだ。

⑥ 来年度活動をする学生へ

自分で活動先を探し、活動するという事は面倒くさいように思えますが活動すればするだけ自分に力がつきます。活動をすれば、普段出会わないような人にも出会うことができ、出会いは必ず自分のためになります。

大学生のうちにはしかできない学びをたくさん行って、たくさん学びを得てください。